

(技術名) 大輪で花色が濃い黄輪ギク新品種「首里の令黄」							
(要約) 黄輪ギク新品種「 <u>首里の令黄</u> (れいき)」は、現在の普及品種「精興の秋」と比較して大輪で花色が濃く <u>切り花品質</u> に優れ、 <u>マメハモグリバエ</u> の被害が少なく <u>到花日数</u> が短いなど栽培特性も優れる。							
農業研究センター・野菜花き班					連絡先	098-840-8506	
部会名	野菜・花き	専門	育種	対象	キク	分類	普及
普及対象地域	沖縄県全域						

[背景・ねらい]

本県の黄輪ギク生産で多く栽培されている品種は、約 30 年前に育成された「精興の秋」である。同品種は花形等の切り花品質は良いものの、マメハモグリバエの加害を受けやすく、到花日数が長い等の欠点があり、それらを改善した新品種育成の要望が長年にわたりある。また、市場競争力の強化という面から、より品質に優れる新品種を望む声も強い。

そこで、マメハモグリバエの被害が少なく、到花日数が短く、さらに、切り花品質に優れる黄輪ギクの新品種を育成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「首里の令黄」は、2013 年度から選抜を開始し、2015～2018 年度に作型検定試験と県内出荷団体での現地適応性試験を実施し、優れた特性が評価された（表 1、2）新品種である。
2. 作型に関わらず、花色は濃黄色で「精興の秋」より濃く、花径は大きく、切り花品質に優れる（表 1、2、図 1）。
3. 切り花長は作型検定試験では「精興の秋」と同等、現地適応性試験ではやや劣ったが、最上位の出荷基準は満たしている（表 1、2）。切り花収量は「精興の秋」と同等である（表 1）。
4. マメハモグリバエの被害は「精興の秋」より少ない（表 1、2）。「精興の秋」と比較して、マメハモグリバエ被害が 2～8 % 減少し出荷本数が増えることにより、3.7～14.8 千円/a の増収が見込まれる（表 3）。
5. 側蕾・側枝の発生は「精興の秋」より少なく（表 1、2）、摘蕾作業量が少なくなる。
6. 到花日数は「精興の秋」より 2～7 日短く、栽培期間が短くなる。開花揃いは良い（表 1、2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本品種は、輪ギク電照栽培における冬春期出荷作型で活用できる。
2. 発蕾前後から主に下位葉が黄化する葉枯れ症状が発生することがある。作付けは、排水対策と防風対策ができる圃場が望ましい。
3. 本品種は農業研究センターとイノチオ精興園株式会社との共同開発品種である。穂木は、イノチオ精興園から供給している。

[具体的データ]

表1 「首里の令黄」作型別特性と切り花収量

年度 ¹⁾	作型 (場所)	品種名	到花 日数 ⁶⁾	開花 揃い	切り花長 cm	調整 切り花重 ⁷⁾ g	花径 ⁸⁾ cm	側蕾・側枝 発生率 ⁹⁾ %	切り花 収量 本/a	マメハモグリハエ 被害率 ¹⁰⁾ %
2015	12月 ²⁾ (農研センター 平張施設)	首里の令黄	52	良	102	72	11.9	37.7	—	0.0
		精興の秋(対照)	56	良	101	73	11.2	56.8	—	8.2
	3月 ³⁾ (農研センター 露地圃場)	首里の令黄	60	良	89	83	11.5	81.3	—	0.0
		精興の秋(対照)	62	良	86	76	10.7	95.4	—	2.2
2018	1月 ⁴⁾ (農研センター 平張施設)	首里の令黄	53	良	72	63	11.8*	40.9	3,692	0.0
		精興の秋(対照)	60	良	67	57	11.5	41.3	3,650	0.0
	4月 ⁵⁾ (農研センター 平張施設)	首里の令黄	52	良	87	83	12.8**	64.7	4,261	0.0
		精興の秋(対照)	58	良	78	71	11.2	70.5	4,167	0.0

1) 作型検定試験は2015年度に実施した。2018年度は作型を変え再度実施した。

2) 2015年8月21日定植、定植後4時間の暗期中断、8月31日摘心、10月24日消灯、11月5～9日再電照、供試数・20株/区・2区制

3) 2015年10月23日定植、定植後4時間の暗期中断、10月30日摘心、12月28日消灯、翌年1月9～13日再電照、供試数・20株/区・2区制

4) 2018年9月10日定植、定植後4時間の暗期中断、9月19日摘心、11月29日消灯、12月11～15日再電照、供試数・20株/区・2区制

5) 2018年12月13日定植、定植後4時間の暗期中断、12月21日摘心、翌年2月21日消灯、3月7～11日再電照、供試数・20株/区・2区制

6) 消灯日から供試数の50%以上が切り前に達する日までの日数

7) 切り花を出荷基準(85, 80, 70cm)でカットし、下葉を20cm程度除去した重量。

8) 対照品種と比較して、*5%、**1%水準で有意(t検定)。

9) 側蕾・側枝が発生した節数/切り花節数

10) マメハモグリハエ被害本数/切り花本数

表2 現地適応性試験¹⁾における「首里の令黄」の特性と評価

作型 (場所)	品種名	花色	花色 測定値 ²⁾	到花 日数	切り花長 cm	節数	調整 切り花重 ³⁾ g	茎径 mm	側蕾・側枝 発生率 %	マメハモグリハエ 被害率 %	評価 ⁴⁾
4月 (名護市)	首里の令黄	濃黄	RHS2015 9A	56	88	41.3	57	6.8	44.8	0.0	◎
	精興の秋 (対照)	黄	RHS2015 9B	62	99	35.5	48	6.7	49.3	0.0	

1) 露地圃場、2018年12月16日定植、12月28日摘心、翌年2月12日消灯、2月25～28日再電照、供試数・40株

2) RHSカラーチャートによる舌状花表面の値。

3) 切り花を出荷基準(最上位出荷基準:85cm)でカットし、下葉を20cm程度除去した重量。

4) 出荷団体の評価 ◎:対照品種よりも優れる、○:同等以上、△:同等、×:劣る



図1 「首里の令黄」(左)と「精興の秋」の花

表3 「精興の秋」と置き換わった
場合の増収試算

マメハモグリハエ 被害軽減率 %	増収金額 ¹⁾ 千円/a
2 ~ 8	3.7~14.8

1) 切り花収量3.5(千本/a)×被害
軽減率(%)×平均単価53(円)

[その他]

課題 ID : 2012 農 012、2018 農 001

研究課題名 : 次世代プラント作物特産化推進事業、先端技術を結集した園芸品目競争力強化事業

予算区分 : 沖縄振興特別推進交付金事業

研究期間(事業全体) : 2013～2017年度(2012～2017年度)、2018～2019年度(2018～2021年度)

研究担当者 : 田場奏美、座喜味利将、儀間直哉、亀山健太、渡邊武志、金城亜季、津田宗一郎、

宮城悦子、玉城盛俊、関塚史朗

発表論文等 : 田場奏美ら「首里の令黄」品種登録出願 2020年3月11日(第34280号)